

山あり山ありのスイスでの留学を終えて

自然科学研究科 高玉秀之

[留学の理由・目的]

私は昔から漠然と海外に対する興味がありました。高専から編入し、現在所属する山岳環境研究室に入りました。そこでは、自分の研究テーマ地域であるキルギス共和国だけでなく、インドやネパールでの研究調査の機会に恵まれました。本研究室では、自分の意志があれば海外での調査へ参加できるチャンスが幸いにも豊富で、そのチャンスを逃すまいと積極的に参加してきました。研究室に入るまでは 3 日間の韓国旅行のみの海外経験でした。そのため、それら海外での調査は、研究は当然大変ですが、それ以上にわくわく感や感動、楽しい思いを経験しました。数年先の将来をそこまで考えていなかった私も、大学院の卒業が近づくにつれて、将来のことを考えるようになります。そこで、海外への興味は仕事でも活かしたいという結論に至りました。海外での調査は普通の人では体験できない経験をしてきましたが、これだけでは、世界で戦える人材になれるとは到底思えませんでした。そこで、長期的に海外に身を置き、研究留学することを決意しました。研究留学では、衛星画像や空中写真などを用いた空間情報解析、フィールドワークによる測量技術を学び、防災・災害復興産業に貢献するという目的のもと留学に行ってきました。

[留学先での学習・活動と生活の環境]

大学では自分の部屋(4人で共有)を与えられ、基本はそこで研究等を行っていました。高度な解析等を行う際は、また別の部屋を使用します。また、担当教授が持つ授業やスイスアルプス等で行う巡検、調査などにも不定期に参加していました。自宅は、4人のシェアルームで男女混合でした。大学へはバスで約20分かけて通っていました。

[印象に残った留学中のエピソード]

私は中央アジアのキルギス共和国で「岩石氷河」と呼ばれる地形の研究をしています。スイスではその岩石氷河を専門にする研究室に所属していました。私たちの研究室の隣には「氷河」を専門にする研究室があったのですが、彼らの研究調査地は主にキルギス共和国でした。留学前にそのことは何となく分かっていましたが、なんとその隣の研究室に、私が以前のキルギスでの調査の際に一緒に同行したキルギス人の研究員が留学中だったのです。なんとも感動的な再会を果たすのです。会った時は本当に驚きました。人生で上位に入る驚きです。It's a small world って感じです。その後、キルギス人の彼やウズベキスタン人とともに、アジア食のパーティーを研究メンバーに開いたのはいい思い出です。

[留学して学んだこと、留学を薦める理由]

研究留学でしたので、研究の技術面の向上はもちろんあったと思います。しかし、留学の醍醐味は人間的な成長にあると思います。私の留学はコネや交換留学ではなく、相手方の教授と直接コンタクトして、留学を実現しました。また、留学が始まって、これといって何をしろという決まりごとはなかったので、積極的に自分から行動し、調査や巡検など幅広く体験する機会を得ました。行動しなければ何も始まらないとはまさにこのことで、行動すれば意外と実現してしまうこともたくさんあって、行動することの大切さ、主体的な行動力は身についたと思います。また、自分の視野も大きく広がりました。よく「視野が広がる」とは多くの方が述べており、抽象的に聞こえますが、日常的に日本と異なる環境に身を置くことで、多様な人々と意思疎通を図ってきたこの経験は、間違いなく、今後の自分の人生の選択の幅や考えを豊かにしてくれます。未知の世界に挑戦することは大変ですし、こわい思いもあるかもしれませんが、失敗や恥ずかしい思いはするでしょう。しかし、その失敗も成長の糧だと考え、勇気をもって一歩踏み出したその挑戦はきっとあなたを裏切りません。

[語学がどのくらい上達したか]

私は英語が好きでもなければ、得意でもありませんでした。むしろ、苦手でした。しかし、できるようになりたい思いは昔からありました。留学前はある程度は勉強しましたが、現地では全く通用しませんでした。それはある程度予想していましたが、現地で生活していれば、いずれ身につくものだろうと考えていたのです。しかし、その考えも非常に甘かったのです。英語でのコミュニケーションの機会は当然増えましたが、のほほんと生活しているだけでは何も身につかないことに気づきます。そのため、大学から帰宅後は、ほぼ毎日英語の勉強に励みました。留学が終わりに近づき、ある1人のルームメイトにこんなことを言われました。「最初自分がきた当時は、何を言ってるかさっぱりだった。でも今はほんとに成長したな。」と褒められました。完璧な英語とは程遠いと思いますが、そんな彼とは食事後に数時間様々な会話をできるようになりました。留学を通して英語力の向上は身をもって感じましたし、帰国した今も継続した勉強や英語の触れる機会を維持したいです。

[トビタテで留学して良かったこと]

私は研究室の先輩である畠瞳美さんがトビタテ5期生として研究留学していたこともあり、私もトビタテへの応募を決めました。トビタテには、事前研修など、留学前にもたくさんの行事があり、正直、めんどくさいと思っていました。しかし、その考えはすぐさま覆されます。トビタテには、理系に限らず、本当に多様な留学形態を持ちユーモアあふれる人々で溢れていました。ニューヨークでのミュージカル留学、ネパールでの難民

支援などなど、本当に自分の知らないことや多様な分野で挑戦しようとしている人たちとの会話は、刺激的で新鮮でした。留学そのものも自分の視野を大きく広げてくれましたが、トビタテでの出会いや経験も自分を大きく成長させてくれました。

